

新しい 学びの場 ④

多様化が進む県内高校文化部

「よぐ来たの〜」。法被姿の高校生たちが色鮮やかな大漁旗を振り、船を降りてくる観光客を出迎える。大間町の大間高校「めんちょ活動部」は、大間港に到着したフェリーを熱烈に歓迎する地域密着型のユニークなおもてなし活動を行う。めんちょこは「かわいい」という意味の方言だ。今シーズン最後の活動日となった10月25日。時折強い風が吹く中、大間―函館間を結ぶ津軽海峡フェリー「大函丸」がターミナルに入港すると、同校の生徒ら4人が力強く旗を振り、函館から訪れた乗客を笑顔で出迎えた。

■ 大間高校めんちょこ活動部 ■



組」の取り組みを引き継ぎ、22年に同校の正式な部活動となった。全校生徒加入型で現在は122人の生徒が所属。1年間で一人最

大漁旗で歓迎 社会勉強に

低1回の参加を目指す。同校によると、02年に278人だった生徒数は20年あまりで半数以下に減少。ほかの部と兼部する生徒もいるため、大会などが重なる。参加率は多いときで25%ほどだ。同部顧問の田中大基教諭は「年々生徒が減る中、どのように活動を維持するかが課題」と話す。

一方、参加をきっかけにボランティア精神が芽生えたり、交流が広がったと喜ぶ生徒も。生徒会長の横谷敏人さん(3年)は「活動を通じ、さらに地域をよく

人口減少が続いている北通り3町村をもっと盛り上げたい」と意気込む。バスケット部と兼部する川崎航輝さん(2年)は「最初は多少の恥ずかしさもあったが、乗客が手を振り返し

大漁旗を降り、フェリーターミナルに到着した乗客を熱烈に歓迎する大間高校の「めんちょこ活動部」は8月、大間町(スタジオクルー油野純平さん提供)

てくれたりしてやりがいを感じた」と笑顔。フィッシング同好会の山崎晴仁さん(同)は「イタリア人とインスタグラムを交換し交流が広がった。友人を誘い活動の輪をもっと広げたい」と意欲的だ。

高校生が学校生活では得られない経験を積む「社会勉強」の場がアルバイト。自己の成長にもつながり他の地域では高校生でアルバイトを始める生徒も多いが同町ではそういった環境が十分とは言えない」と米田智校長は指摘する。その上で「地域の大人と交流する場としてボランティア活動は重要で、地域も若い力を必要としている。今後も生徒数の減少は避けられないが、どのような形態となっても活動は継続したい」と強調した。(長谷川恵子)

※連載「そこにもAI」は休みました。